

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 21年8月－自動車を中心に 輸出の回復ペースが鈍化

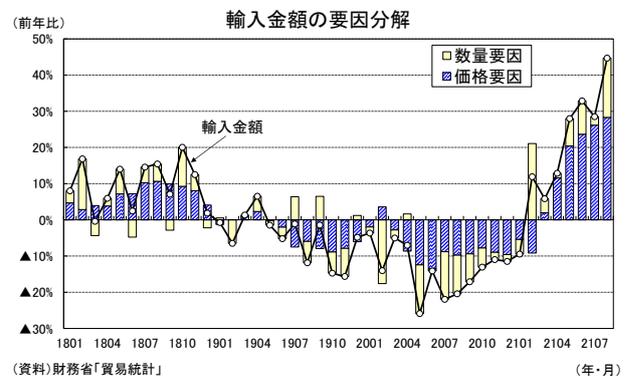
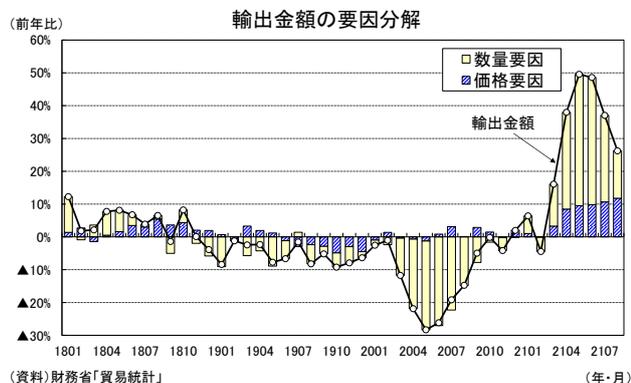
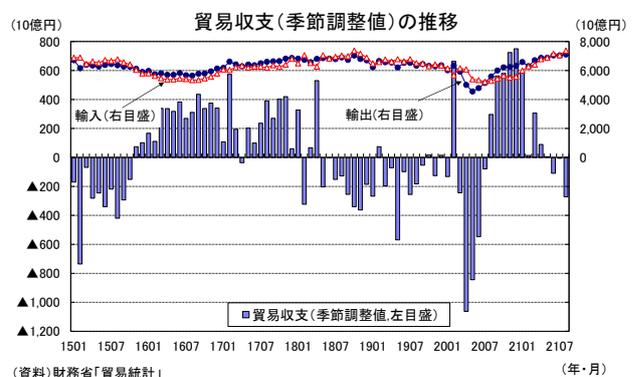
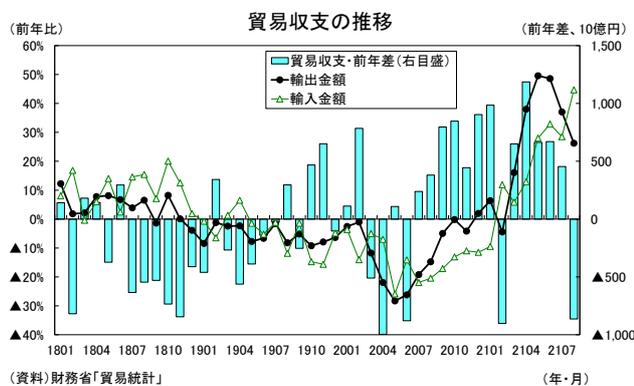
経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 自動車輸出の伸びが急低下

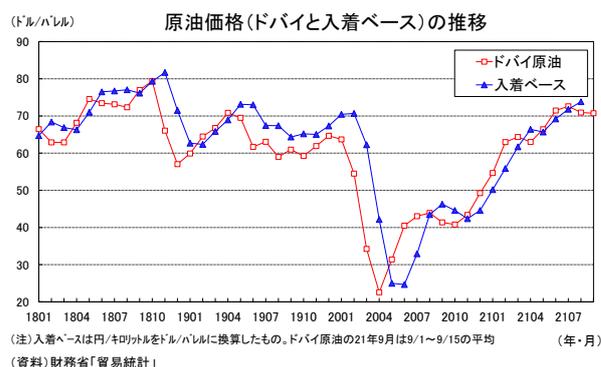
財務省が9月16日に公表した貿易統計によると、21年8月の貿易収支は▲6,354億円の赤字となり、事前の市場予想（QUICK集計：▲476億円、当社予想は▲2,095億円）を大きく下回る結果となった。輸出の伸びが7月の前年比37.0%から同26.2%へと鈍化する一方、輸入が7月の前年比28.5%から同44.7%へと伸びを大きく高めたため、貿易収支は前年に比べ▲8,633億円の悪化となった。部品不足に伴う生産調整の影響で自動車輸出が7月の前年比43.5%から同4.0%へと急減速したことが輸出の伸びを大きく押し下げた。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比13.7%（7月：同25.2%）、輸出価格が前年比11.1%（7月：同9.5%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比14.4%（7月：同2.1%）、輸入価格が前年比26.4%（7月：同25.9%）であった。



季節調整済の貿易収支は▲2,718億円と3ヵ月連続の赤字となり、7月の▲59億円から赤字幅が大きく拡大した。輸出は前月比0.8%の増加となったが、原油高の影響などから輸入が同4.6%の高い伸びとなった。

8月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル＝73.9ドル（当研究所による試算値）となり、7月の71.8ドルから上昇した。足もとの原油価格（ドバイ）は70ドル前半で推移しており、通関ベースの原油価格は9月も70ドル台となるが見込まれる。



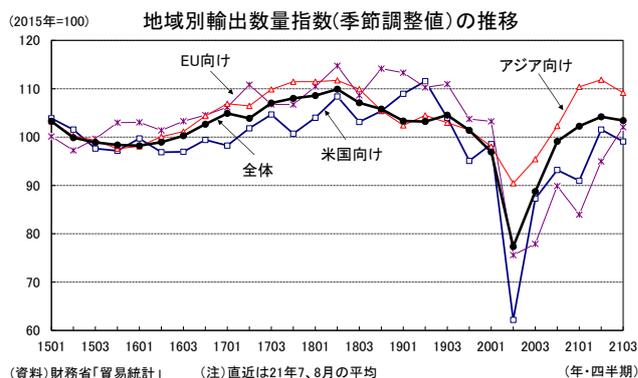
2. 輸出の回復ペースが鈍化

21年8月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比13.2%（7月：同19.5%）、EU向けが前年比30.2%（7月：同40.0%）、アジア向けが前年比11.1%（7月：同20.4%）、うち中国向けが前年比5.9%（7月：同12.2%）となった。

21年8月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前月比▲7.6%（7月：同▲1.8%）、EU向けが前月比1.0%（7月：同7.1%）、アジア向けが前月比▲1.5%（7月：同1.4%）、中国向けが前月比▲5.0%

（7月：同▲2.7%）、全体では前月比▲0.4%（7月：同▲1.0%）となった。

7、8月の平均を4-6月期と比較すると、EU向けは7.5%高いが、米国向けが▲2.4%、アジア向けが▲2.4%、中国向けが▲4.5%、全体では▲0.7%低くなっている。各国・地域ともに自動車輸出が大きく落ち込んでいるが、米国向けは自動車の割合が高い（20年実績は27.5%）ため、輸出全体への影響が大きくなっている。



世界的な設備投資の回復やデジタル関連需要の拡大を背景に、資本財、情報関連財が堅調を維持する一方、部品不足を受けて自動車が急減速していることから、輸出全体としては回復ペースが鈍化している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。